

「パラレル・ニッポン 現代日本建築展 1996-2006」関連シンポジウム

「ポストバブルの建築シーン」

< 共催 > 日本建築学会・国際交流基金・東京都写真美術館・東京新聞

開催日時 : 2006年11月9日(木)18:30~21:00

パネリスト(予定) 三宅理一(慶応義塾大学教授、司会)、三浦展(消費社会研究者)、金村修(写真家)、藤森照信(東京大学教授、建築史家・建築家)、ヨコミゾマコト(建築家)、米山勇(江戸東京博物館助教授、建築史家)ほか

概要 「パラレル・ニッポン 現代日本建築展 1996-2006」では、いわゆるバブル期からポストバブル期の日本の建築作品を112点紹介しています。この展覧会の関連事業である本シンポジウムでは、1996年から2006年にかけての日本の都市や建築を取り囲む社会状況を社会学、写真家、建築家などの様々な立場から語っていただきます。社会、経済、政治状況の変動の時代に、建築あるいは都市の概念がどのように変貌を遂げてきたのか、また建築家がそれにどのように対応してきたのか、「ポストバブルの建築シーン」が、今、明らかになります。

開催場所 ジャパンファウンデーション 国際会議場
〒107-6021 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル 20階

問合せ先 ジャパンファウンデーション 芸術交流部 造形美術課(担当:岡部)
Tel: 03-5562-3529 Fax: 03-5562-3500

参加方法 参加無料。参加を希望される方は、お名前、住所、連絡のつく電話番号を明記の上「ポストバブルの建築シーンシンポジウム参加希望」のFAXを上記造形美術課(Fax:03-5562-3500 藤田・尾形)宛お送りください。参加は、先着200名様までとさせていただきます。200名様を超えるお申し込みがあった場合のみ、当方よりご連絡をさせていただきます。なお、参加当日は、アーク森ビル1階受付にて入館券をご記入ください。